

横浜DeNAベイスターズ旗争奪少年野球大会 大会競技細則

- 1、 使用球は、公認軟式ボール（ケンコーボールJ球）とする。
- 2、 ホームベースは一般用を使用する。
- 3、 ファウルボールはベンチから近いほうのチームが直ちに取りに行くこと。
- 4、 ベンチは抽選番号の若いチームを1塁側とする。
- 5、 試合中は、登録された指導者と選手、介護係以外の者はベンチには入れない。
- 6、 定められた者以外はベンチ(もしくはボールデッドライン)からみだりに出ないこと。
- 7、 試合開始予定時刻前でも前の試合終了後20分経過したら試合を開始する。
- 8、 試合前のシートノックは5分間とし、後攻チームから行う。
(ブロック長もしくは大会本部の判断により行なわない場合も有る。)
- 9、 対戦相手チームへの野次や誹謗中傷は厳禁とする。
- 10、 投手の投球練習は初回5球、2回目以降5球以内とする。
- 11、 ベンチ入りの監督、コーチはユニフォーム着用とし、監督は背番号30とする。
- 12、 抗議権は監督(代理監督を含め、当日のメンバー表に記載された者)のみとする。
- 13、 審判対応は、ブロック長もしくは大会本部からの協力要請に従うこと。
- 14、 選手の受傷事故防止及び健康管理にはチーム責任者が十分に留意すること。
(本大会中に於ける事故に対しては本部は一切関知しません。また、スポーツ保険に加入していない選手の出場は認められない。)
- 15、 ヘルメットは、打者と走者はもとより、ランナーコーチャー、ボールボーイも必ず着用すること。
- 16、 投手は変化球を禁ずる。指導者は指導を徹底をすること。
- 17、 試合は出場選手の健康を考慮し1日2試合以内とする。
- 18、 試合時間は90分とし、これを超えて新しい回には入らない。90分経過した時点で同点の場合は特別ルールにより最大2回まで延長戦を行う。延長戦により決着がつかない場合は抽選とする。
6回終了時に同点で、且つ試合時間が90分を超えていない場合は最大2回まで延長戦(特別ルール対象外)を行う。延長戦により決着がつかない場合は抽選とする。
- 19、 決勝戦は時間に関係なく6回まで行う。6回を終了して同点の場合は特別ルールにより最大2回まで延長戦を行う。延長戦により決着がつかない場合は抽選とする。
- 20、 コールドゲームの成立は3回以降10点差、5回以降7点差とする。但し、決勝戦はコールドゲームは採用せず6回まで行う。
- 21、 日没や天候不順等で試合続行が不可能になったときは、4回以降終了をもって試合成立とする。
4回を終了せずに試合続行が不可能となった場合はノーゲームとなる。
4回終了以降に試合続行が不可能となり、且つ同点の場合は、後日継続試合として行う。
- 22、 試合開始時刻を経過しても出場しないチームは棄権とする。
- 23、 選手の交代は必ず監督が球審に申し出ること。
- 24、 特別ルールは、1アウト、前回最終打者1塁、前回最終前打者3塁、打者は継続打順から行う。
この特別ルールは最大2回までとし、決着がつかない場合は抽選とする。
- 25、 投手の投球制限については、1人の投手は1日70球以内とし、試合中に70球に達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
試合中に投手が捕手に向かって投げた投球はボークも含めて投球数としてカウントする。
雨などでノーゲームになった試合も投球数としてカウントする。
牽制球や送球とみなされるものは投球数としてカウントしない。
故意四球による四球で実際に投球されていないものは投球数としてカウントしない。
投球数は、ブロック長もしくは大会本部がカウントし、インニング終了時に両チームに通知する。
- 26、 守備側チームの監督が、打者を故意四球とする意思を審判員に伝えた場合(この場合はボールデッドである)、打者にはボール4個を得たときと同じように1塁へ進ことが許される。
(1) 従来通り、投手が敬遠するために実際に投球して四球にすることも可能である。
(2) 打撃中の投球カウント途中においても、守備側の監督が故意四球を申告することは可能である。
(3) 守備側の監督から申告されれば、球審はボールデッドとして打者に1塁を与える。
(4) 実際に投球されていないものは投球数としてカウントしない。
(5) 攻撃側チームが代打を告げた場合、先に代打の手続きを行ってから敬遠のリクエストを受ける。
(6) 投手が交代した最初の打者が申告による敬遠で1塁に進んだ場合、投手は1人の打者と対戦したとみなされ、交代することができる。
- 27、 タイムの回数は、守備時2回、攻撃時2回の計4回とする。延長戦(特別ルール含む)の場合は、それぞれ1インニングに1回ずつのタイムを認める。
同一インニングに監督が2度タイムを取り、投手に指示・伝達した場合、その投手は交代させなければならない、交代した投手は他の守備に付くことはできる。
選手の怪我への対応や選手交代の指示伝達はタイムの回数としてカウントしない。
内野手が2人以上投手のところに行った場合は1回とカウントする。